

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい生徒の育成	○魅力ある学校づくり(不登校生10名以下) ○学ぶ意欲の向上

自己評価は4段階で評価しています。(4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:どちらかというと思わない 1:そう思わない) ※数値(上段:12月 下段:6月)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学習指導	日常的に学力向上を意識しながら教科の授業に取り組んでいるか 〈結果〉 年間を通じて計画的に校内研修を実施し、一人2回の授業研修や生徒の授業アンケートもとにした授業改善を行うことができた。	3.6 ↑ 3.5	たゆまない授業改善への道のりは大変だと思うが、生徒の確かな学力の定着のために、組織的に行ってほしい。 先生方が学力向上を意識しながら日々の授業に取り組んでいることが伝わってくる。	○学力向上プランをもとに、研究推進委員会及び学力向上検証委員会を中心とした各種委員会が連携・協働し、PDCAサイクルに基づく具体的な取組を実行していく。 ○そのためにそれぞれの委員会が年間計画を立案し、着実に実施・評価・改善を図っていく。特に、学力向上検証改善サイクルのロードマップをもとにし、DOの重点化を図る。 ○定期考査等における思考力を問う問題の質の向上のための校内研修を実施する。 ○学力のCD層の生徒に対し、鍛ほめの方途を取り入れたそれぞれの個の実態に応じた自学ノートの取組を推進し、CD層の減少を目指す。
	モジュール学習で10分間生徒がしっかりと取り組めるように指導しているか 〈結果〉 年度当初に目的を共有し、年度途中にも取組評価を共有したことで、全校生徒がしっかりと取り組むことができている。次年度に向けたより効果のある取組につなげる必要がある。	3.0 ↑ 3.0	モジュールの成果が生徒の学力にどのようになっているか明らかにすることが、生徒と同様に教師の意欲の向上ややりがいにつながると思う。	
	授業で理由や根拠をもとに自分の考えを表現する(かく)活動があるか 〈結果〉 全教科で授業のグランドデザインをもとに思考活動(かく活動)の充実を図る授業に取り組んだ。	3.5 ↑ 2.5	グランドデザインをもとにした取組を含め、小中校区部会前に2回報告を受け、中学校の取組を小学校も知ることができた。 自分の考えを表現するかく活動に力を入れて指導に取り組んでいることが評価に表れている。	
	授業では一単位時間の授業の流れ(「めあて」「見通し」「思考活動」「まとめ」「振り返り」)を行っているか 〈結果〉 一人2回の授業研修を通して、全教員が意識して授業改善に取り組むことができた。	3.2 ↑ 2.8	教師のスキルアップにつながっているため、来年度は生徒の学力向上・進路実現としての結果を期待したい。 一人2回の授業研修は時間調整など大変だったと思うが、実施したことで教員の意識が高まっていることが分かる授業改善の評価が著しく向上している。	
家庭学習の習慣化	各教科で課題(特に週末)を与えることができたか 〈結果〉 各学年で教科の課題内容の量を調整するなど、生徒の状況に応じた課題を与えるなどの工夫した。	2.4 ↑ 2.3	家庭学習について、小学校では宿題として与えることが多いので、中学校に向けて高学年から少しずつ自分で計画して取り組めるようにしていきたい。 生徒の自己評価でも2.6で一番低かった。毎日の家庭学習が今後の課題である。	○学校通信やホームページすぐメールの内容の充実を図るなど、保護者や地域へ学校の様子をさらに分かりやすい情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や学習参観を積極的に参加を呼びかけ、多くの地域・保護者から生徒の活動の姿を見て評価をしていただく。 ○小中で連携したノーメディア週間の推進など、家庭学習に対する保護者の意識高揚を図る。
	家庭学習の方法や取り組み方、家庭学習に向かう姿勢などを指導したか 〈結果〉 考査前学習計画表に保護者からのコメント欄を設けたり、考査前には小学校と連携したノーメディアチャレンジ週間を設定するなど家庭と連携した取組をおこなった。	2.9 ↑ 2.2	小中で連携してノーメディアに取り組めたことは良かった。小学校でも保護者からの前向きなコメントがあり、次年度も継続していく。	
総合所見	教職員一人一人の授業改善に対する意識の向上がみられる。研究推進委員会を中心とした校内研修の充実、一人2回の授業研修などを通して、職員の指導力の向上の結果があらわれてきた。今後も、学校の中核となるミドルリーダーや若手教員の人材育成を意図した組織づくりを通して、学校教育目標の具現化に向けた協働体制を整えていく。また、教育課程のカリキュラムマネジメントを通して、教育活動の一貫性や関連化を図るようになる。さらには、学力向上推進拠点校事業最終年度として、研究目標への協働体制作りを組織的にいき、より効果のある取組を展開していく。			

生徒指導	落ち着いた学校づくり	生徒がチャイム1分前着席を守る指導を行っているか 〈結果〉 全校で「学習規律のスタンダード」をもとにした授業への構えを振り返る指導を行い、生徒のほとんどが守ることができている。	3.7 ↑ 3.4	学力の基盤作りの一つとして学習規律がある。生徒が自ら規律を守ろうとするシステムが大切だと思う。その様子が数値に表れている。 チャイム1分前チャイム着席が徹底している様子が高い評価に表れている。	○生徒会活動と連動した学習規律のスタンダードの徹底週間を実施する ○学期に1回のいじめに特化したアンケートの実施をはじめ、日常的にいじめや問題行動防止に向けた意識の高揚を図る。 ○積極的にいじめを認知し、継続的に対象生徒のみとりを行う。
	授業規律について指導を行っているか 〈結果〉 全職員での指導はもとより、生徒会活動と連動した取組を行った結果、落ち着いた環境で授業をすることができている。話を聞く態度の指導の徹底が不十分である。	3.2 ↑ 2.9	書く、話すといった表現の前に聞くという態度の育成が大切だと思う。聞く態度の育成に取り組むことは良いことだと思う。		
	挨拶の指導を行っているか 〈結果〉 ほとんどの生徒が積極的に挨拶ができるようになっている。	3.9 ↑ 3.6	中学校に行くと、生徒の元気の良い挨拶にとても気持ちよくなる。 挨拶にあふれた生徒のに日常の姿が高い評価から伝わってくる。		
	生徒の姿を具体的にほめているか 〈結果〉 生徒の具体的な努力の過程やその成果をみとり、評価・ほめることを通して努力できる自分や、やればできる自分への手応えを感じさせ、さらなる意欲を引き出すことが必要である。	3.3 ↑ 3.2	ほめることだけでなく、認める、承認することも大切にした生徒指導も期待したい。		
	総合所見	いじめや差別に繋がる日頃の言葉遣いに注意が必要である。生徒同士の些細なトラブルを自分たちで解決できる力や日頃からの関係づくりを意図的に行う必要がある。担任は計画的、また日頃からの教育相談や生活ノートによる生徒とのやり取りをきめ細かに行うなど、生徒の様子に気を配り、信頼関係づくりをして行く必要がある。今後は生徒同士の信頼関係づくりを積極的に行っていくとともに、生徒が自ら規範を意識し、主体的に規範を守ろうとする指導を行っていく。			
職員研修	校内研修の充実	校内研修で学んだことを日常の教育実践に生かしているか 〈結果〉 主題研究をもとに、計画的な校内研修を行い、全職員で授業改善に取り組むことができた。	3.4 ↑ 3.2	授業改善の意欲が向上していることが数値に表れている。全職員の意識のベクトルをそろえるために計画的な校内研修が効果的だと思う。	○各種委員会におけるOJTによる人材育成をおこない、次世代のリーダーを積極的に生み出していく。 ○そのための校内研修を工夫し、自主的な研修を計画的に実施する。 ○授業改善、家庭学習やモジュール、補充学習の充実による学力向上の取組をPDCAサイクルに従って実行する。
	校内研修の充実	全教師が年1回の授業研究に取り組めたか。 〈結果〉 一人2実践の研究授業を行い、授業後の協議会や校内研修で振り返ることができた。また、その反省を生かしたさらなる授業改善のサイクルが定着しつつある。	4.0 ↑ 4.0	授業計画を頂いていたが、コロナ感染症の影響で参観が思うようにできなかった。小学校には中学校から数名来ていただいた。 全教師が授業研究に取り組んでいて素晴らしい。	
	校外研修の参加	センター研等へ積極的に参加することができたか 〈結果〉 様々なセンターでの研修が中止となり、新たにリモートでの研修に代わっていった。		一人2回の授業研修において、全員が指導主事による指導を受けることができた。今後は一般研修においても職員に必要な研修を実施することが大切だ。 コロナ禍で外部の研修の機会が減っていることは残念だ。	
	総合所見	本校は年齢構成が若く、これからの教育界を担っていく教員が多い。そのため、実践的授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上、新たなミドルリーダーの育成を計画的に行っていく必要がある。人材育成のためには、仕事を任せた上での指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校務分掌やライフステージに応じた校外での各種研修への受講・参加を促し、その研修内容の還流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげなければならない。			